

令和元年度 庄原市学校図書館研修会

- 日 時：令和元年7月5日（金） 13：40～16：35
- 場 所：庄原市立高小学校
- 対象者：庄原市内各小・中学校の図書館担当者26名，学校司書10名

目 的

児童生徒の主体的・意欲的な学習活動や読書活動を促進する学校図書館づくりについて研修することを通して，学校図書館担当者と学校司書が連携し，図書館の活用と児童生徒の読書活動の充実を図る。

研究授業 第6学年 国語科 「風切るつばさ」「あるはれたひに」 授業者 高小学校 教諭 平本 ルリ子



【研究授業の概要】

前時までに児童は，教科書教材「風切るつばさ」で，人物の関係に着目して読み，テーマをパンフレットにまとめる学習を行っている。本時では，これまでの学習を生かし，同一作者の「あるはれたひに」を読み，キャッチフレーズを考え，まとめる学習を行った。児童は，短冊に自分の考えたキャッチフレーズを書き，交流することで，この話のテーマについて深く考えることができた。本時の終末では，作者である木村裕一さんの物語の世界観をとらえる学習を行った。



【参加者の感想】

- ◆ 同一作者による，類似したテーマの本を活用することにより，深い学びへと誘うことができる可能性を示した授業であった。
- ◆ 一つの作品から，他の作品へ広がりをもたせる授業の在り方がとても参考になった。
- ◆ キャッチフレーズを可視化したり，短冊によって自分の考えを深めたりする手法を複式学級の授業へ取り入れたいと思った。

指導講話 「豊かなことばの力を育てる学校図書館の利活用」 三原市立糸崎小学校 前校長 西田 千加子



【指導講話の概要】

- 読書は，変化の激しい社会を生きるために必須である。また，読書をする中で，生涯にわたって学び続ける力を身に付けることができ，人生を豊かにすることができる。
- 1冊の本，指導者の一つの声かけで，子供たちは，変容することができる。指導者が，子供たちの力を信じて，どのように成長してほしいか，そのために何をすべきかについて，校内でしっかり協議することが必要である。
- 一人一人の子供の姿を思い浮かべ，その子供のために選書したり，本を通して寄り添ったりすることで，読書好きの子供たちを育てることができる。

【参加者の感想】

- ◆ 西田前校長先生は，本当に本を大切にしておられるからこそ，子供たちが本を通して，どのように成長しているかが見えておられるのだと思った。私も，少しでも西田前校長先生のように本の魅力を語れるよう，まず，「本を読もう」と強く感じた。「本を読むことは楽しいよ」と自分自身が心から子供たちに伝えることができるようになりたい。
- ◆ 子供が生涯にわたって，本や読書を心の支えとしていくことができるかという視点をもって，学校教育で取り組んでいく必要があると感じた。